



古田晁記念館 文学サロン

2025年

10/30 [木]

13:30~16:00 (開場 13:00)

場所 / 北小野地区センター 多目的ホール

第1部13:30~
14:00**「だるいことにこそ、生きる意味が詰まっている」**

講師：市街地 ギャオさん

ひとつのことに熱中したり、それを継続するのが苦手でした。だるいから。そんな自分が2023年の一年間、小説だけをがんばってみようと思っただけで、決意してあらゆる文学賞に投稿してみたところ、気づいたら2025年の今も小説を書き続けています。小説を書くなんて最上級にだるいことなのに。もしかしたら、人生の意味というものは、熱中できるものを見つけることではなく、なんでもいからまず熱中してみることにあるのかもしれない。

市街地 ギャオ (しがいち ぎゃお)
2024 太宰治賞受賞者・小説家

1993年、大阪府生まれ。大阪府在住。会社員。2024年「メメントラブドール」で第40回太宰治賞受賞。同作で第46回野間文芸新人賞候補、第1回永井荷風賞候補。その他、「きみが夢から醒めないように(すばる2025年2月号)」「IN a FloP (GOAT2025年夏号)」「おれの舌禍(小説すばる2025年7月号)」など。

第2部14:00~
16:00**「どうなる？これからの出版界
一元筑摩書房の社長が出版界の今後を予測する」**

講師：菊池 明郎さん

出版業界の売上は1996年にピークを迎え、2兆6500億円を超えました。しかし昨年はピーク時の4割弱と減っています。他方、電子書籍の売上は5600億円強と大きく伸びましたが、売上の9割がコミックです。一体この先どうなるのでしょうか。さらに心配の種は町の書店がどんどん減っていること。2万店をはるかに超えていた書店の数も昨年は8千店を切ったと言われています。

読書を巡る環境がかつてないほど厳しい状況を、私たちは改善できるのでしょうか。皆さま共々考えてみたいと思います。

菊池 明郎 (きくち あきお)
筑摩書房顧問 (元社長)

1947年生まれ。1971年3月国際基督教大学卒業後、筑摩書房へ入社。1999年6月に(株)筑摩書房代表取締役社長に就任。2011年6月から2013年6月まで代表取締役会長を務め、現在は顧問。「日本書籍出版協会」副理事長、「出版梓会」理事長など出版団体の仕事も長年取り組んだ。

※ 同日、墓参ツアーを開催します。詳細は裏面をご覧ください。

日時 / 2025年10月30日 (木) 13:30~16:00

場所 / 北小野地区センター 多目的ホール

定員 / 60人 (先着順) 参加費 / 無料

申込開始 / 9月12日 (金)

申し込み /

本館総合カウンター、電話、メールのいずれか。

メールの場合は次の内容をお送りください。

- 宛 先 tosho@city.shiojiri.lg.jp
件 名 「10/30 本の寺子屋申込」
本 文 1 参加者全員の氏名(フリガナ)
2 代表者の電話番号
3 お住まいの地区
4 この講演を知ったきっかけ